



Effects of compression stockings on elevation of leg lymph pumping pressure and improvement of quality of life in healthy female volunteers: a randomized controlled trial

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2017-06-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 杉澤, 良太 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/3186

論文審査の結果の要旨

浜松医科大学医学部附属病院血管外科では、インドシアニンググリーン (ICG) 蛍光リンパ管造影と透明血圧計用カフを用いてヒトリンパ駆出ポンプ圧を測定する方法を開発し臨床的意義を評価している。申請者は本測定法を用い、弾性ストッキングの着用が、リンパ駆出圧の低下とこれに伴う種々の自覚症状を改善しうるかを検討した。30-60 歳代の健常女性ボランティア 219 名を対象としてリンパ駆出圧を測定した後、両足あるいは片足のリンパ駆出圧が 20 mmHg 以下に低下していた 80 人 (36.5%) 160 肢を対象に以下の調査を実施した。被験者を 2 群に分け (各 40 名)、各々ストッキング A (A 群: 着圧 15-29 mmHg、平均 20mmHg) あるいはストッキング B (B 群: 着圧 7.5-15 mmHg、平均 10mmHg) を 16 週間着用させた。試験開始時と 8 及び 16 週目にリンパ駆出圧を測定するとともに、QOL の改善度を SF-36 健康度調査により、また浮腫とこむら返りの自覚症状についてアンケート調査により検討した。その結果、リンパ駆出圧が試験開始時に 20 mmHg 未満だった肢では、いずれの群でも 8 週・16 週の時点で有意に上昇し、A 群の方が B 群に比べ改善度は有意に高かった。一方、試験開始時に 20 mmHg 以上であった肢では、リンパ駆出圧の上昇は認めなかった。また健康度調査では、A 群で 16 週目で *bodily pain* と *vitality* の改善を認めた。こむら返りに関しては、いずれの群でも 16 週目に有意な有病率の低下を認めた。また浮腫に関しては、A 群においてのみ 16 週目に有意な有病率の低下が認められた。これよりリンパ管駆出圧の測定がリンパ還流障害に伴う自覚症状の指標として有用であるとするとともに、弾性ストッキングの効果も客観的に評価できたとした。

審査委員会では、独自に確立したリンパ流の定量法を用い、リンパ駆出圧と自覚症状の関連を証明するとともに、低リンパ駆出圧群に対する弾性ストッキングの治療効果を客観的に評価した点を高く評価した。

以上により、本論文は博士 (医学) の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 浦野 哲盟

副査 星 詳子 副査 美津島 隆